

## 第6回藤沢駅前街区エリアデザイン会議 議事要旨

### 1 エリアデザインコンセプト案の検討

(全体に関することについて)

- ・会議の内容が反映されていて、全体的にわかりやすい。
- ・言葉尻の表現が難しいところがあるので整理が必要。
- ・交流・にぎやかで地に言及しているように、図と地の関係の整理が必要。
- ・資料4の応用の仕方につながるが、デザイン要素をSDGsのようにアイコンや色で表現してもよい。
- ・整備後のコンセプト作成のため、後付けとはなるが、安全性や快適性が低かった空間に対して、整備によって安心安全な明るい空間となっている。
- ・今までの知見がないと読み解けないのはよくない。文脈を理解してもらえるようにテキストが大事。
- ・デザインコンセプトからこの要素を使ったということを示すことができれば、今後、他の施設でデザインを組み立てていくときに、コンセプトの使い方がわかるだろう。
- ・今までの議論の結果ではあるが、一方で前後の文脈がわからない人がデザインの根拠にできるように、今まで重ねてきたことが印象で損ねてしまわないように気を付ける必要がある。
- ・修正というよりはチューニングが必要。

(デザインイメージについて)

- ・デザイン「イメージ」ではなく、デザインの「事例」である。
- ・コンセプトでイメージを載せるとそれを目指してしまう懸念がある。
- ・イメージを載せるのであれば、キャプションが大事。デザインの落とし込み方の例である。写真があると引っ張られるかもしれないが、ないとわかりづらい。
- ・藤沢駅の北口や地下通路を目指すべき理想の施設とするのではなく、新しい取り組みやチャレンジングな事例を紹介してもよい。統一的なサインの事例としては横浜駅、敦賀駅などがある。また大きなサインがわかりやすいサインということではない。
- ・イメージとして示している整備済みの施設がコンセプトに合っていないわけではないが、目指すべきゴールと思われぬようにしたい。
- ・藤沢駅前の事例に固執せず、余白というか、解釈できるような写真にするとよい。
- ・目指す風景像ではなく、応用の仕方のひとつであることがわかるような説明にする。
- ・事例とイメージが混同しやすいため、テキストや見せ方で工夫するとよい。

### 2 南北自由通路のデザイン案の検討

- ・柱を木にするか、木目調にするか、色を付けるかは議論が必要。柱は最初から色があってもよいかもしれない。
- ・デザインをしすぎない方がいい。天井の仕様や色調を抑え目とする。
- ・イベント空間はA案のように運用で仮設的につくるやり方がある。
- ・構造物を塗装する際に木目ではないかもしれない。
- ・サインやデザインが全体ルールで統一されていくということはよい。

以上